

見習うべきは「チャリティーショップ」

－エコ研からの提言

阿部博光

Hiromitsu ABE

イギリスは高緯度に位置することから、真冬ともなると日照時間が短い。明るくなるのは午前9時ごろ。そして午後4時にはもう暗くなっている。どんよりとした曇りの日が続くのもイギリスの冬の特徴だろう。ロンドン市内を走る多くの車は真昼でもライトを点灯している。冬の休暇シーズンになると、多くのイギリス人が太陽の光を浴びようとフランスやスペイン、イタリアなど地中海方面に繰り出すのもうなずけるわけだ。しかし、そんな暗くて寒い冬の雰囲気をも明るく盛り上げてくれるところがある。慈善団体の運営するチャリティーショップだ。

英国民なら誰もが知っている

日本人にとっては、チャリティーショップというのは聞き慣れない言葉だろう。しかし、イギリスではどの街へ行っても必ず何件か見かける。イギリス国民なら誰もが知っている、誰もが通っているお馴染みのショップである。市民から必要なくなった衣服や食器、本、日用品などを無償で提供してもらい、それを格安で販

売。売り上げは慈善事業の活動資金に充てる。「商品」はいわゆるリサイクル品だが、衣類などはクリーニングされた清潔なものしか販売されておらず、日用品も新品同様のものが少なくない。普通の小売店には置いていない掘り出し物もみつかる。

環境・経済・社会分野で貢献

チャリティーショップは、多くの資源が大切に使われるというだけでなく、市民がモノを安く買うことができる、慈善団体が資金調達もできるというまさにいいことづくめ。しかし、このような環境、経済、社会など多分野に貢献できるシステムが日本にはない。なぜだろうか。

イギリスの慈善団体の数は、細かいものまで入れると300以上に上るといわれ、これら慈善団体の多くがそれぞれチャリティーショップを営んでいる。世界の貧しい子供たちの生活や教育を支える「セーブ・ザ・チルドレン」、がん患者を支援する「キャンサー・リサーチ」、動物愛護を目的とする「RSPCA」といった団体が各地に店舗を繰り広げる。従業員はすべてボ



写真1 イギリスならどこの街でもみかける「チャリティーショップ」。違う慈善団体の店が軒を接することも珍しくない。

ランティアで賄っているのも大きな特徴だろう。

プロ顔負けの経営手腕

またチャリティーショップの中には、一般小売店つまりプロ顔負けの経営手腕を振るうところもある。貧困国や被災地などに資金や物資を送り続ける「オックスファム」の場合、国内店舗数は750にも上る。貧しいアフリカ諸国の経済的自立を支援するため、コーヒーやカカオなど一次産品を公正価格で買い取った「フェアトレード商品」も販売しており、全店舗の年間収入は760万ポンド(約11億円)に達するという。

クリスマス・シーズン。イルミネーションに

飾られた店は盛り上がりを見せる。1等乗用車、2等液晶テレビといった豪華景品をそろえた「宝くじ」を販売する方法で資金集めを行うところも多い。単純に慈善団体へ募金するのは違って景品が当たるチャンスがあることから、多くの市民が買い求める。もちろん賞品はすべて企業から寄付されたものなのでチャリティーショップ側の元手はかかっていない。

確かに、店頭飾られたクリスマス・イルミネーションは、一般小売店のような派手さはない。しかし、多方面からの多くの善意で支えられたチャリティーショップの店舗は一段と輝きを増し、寒くて暗いイギリスの冬を明るく、そして温かくしているように思える。

「エコ」を通じて多彩な社会経験

エコ研究会

昨今、環境問題から「エコ」という言葉がよく使われますが、身近なエコを考えると何を思いつきますか。例えば、ペットボトルなどの再利用。キャップを2000個回収すればポリオワクチン1人分と交換ができ、それが発展途上国の子供たちの健康維持に役立っているとのこと。最近では、地球温暖化防止に貢献する目的で自宅にソーラーパネルを設置する家庭も目立ち始めました。発電した電力の余った分は電力会社に売ることができます。このように私たちの身近なところでエコ活動は行われています！

私たちエコ研究室(以下、エコ研と省略)は、2009年秋に発足したまだ出来たてのほやほやな研究会です。まだ手探り状態。ですが、エコ研の活動の第1弾としてさっそく大分県の湧水とエコの関係をテーマに活動を始めました。また、環境保護に貢献するようなボランティアがあれば行いたいと思っています。調査やボランティアなどを中心に据えているため、フィールドワークが中心となります。



写真3 エコ研のメンバー



写真2 ボランティア中の石丸室長(中央)らメンバー

私たち学生が主体となって環境に関する問題を考え、行動に踏み切る。そして、多彩な経験を通じて私たちの実社会を見つめる目を養い、人間的な魅力を形成できるようになることを目標にしています。

まだまだメンバーは少ないですが、みんな仲が良く和気あいあいとした研究会です。エコに興味がある、ボランティアに興味があるなどなど……フィールドワークを通して大分県や別府を知るっていうことも面白いと思いませんか？

少しでもエコに興味があれば、ぜひぜひ！ エコ研を見学しに来て下さい。